

2024 年度 事業報告書

自 2024 年 4 月 1 日

至 2025 年 3 月 31 日

社会福祉法人 こばと会

保育部門

社会福祉法人こぼと会 保育部門

2024 年度事業報告

今年度の保育テーマ

～理念の深化(一人一人の愛を深める)～

保育の質をより深く高めるべく、目標を愛とした。とはいえ、この言葉の共有は思ったほど簡単ではなく、言葉だけが上滑りする感もあったと反省している。令和7年度に具体的な方法をもって表現を深めていく所存である。

実際に保育の質の高まりをどう実現していくものか考えあぐねるところが多かったスタートであった。特に、園による差があるのは当たり前であるが、全体的な保育のスキルに対する意識の差が大きいと感じていたので、副主任以上と相談しながら、その差を埋めるべく新たな試みをしたことは、重要事項であった。

その内容は、小規模も含めた4園合同による1歳児クラスの研修であった。

子どものはたっつにおける1歳児の内容は特に重要と考えている。脳機能が大きく進展していくこの年齢期。体すべてにおける発展的な進展がみられる大切な時期である。かわいい、時期ではあるが、それ以上にこの時期に手をしっかりと入れていくことが、子どもの将来における重要な転換期ととらえていた。そのため、この時期にまず絞り、各園が共通した内容を学びながら、子どもの成長を実感していこうという名目をもとに半年かけ研修をしながらその成果を職員自身が感じ取れるよう支援していった。

結果は、予想以上のものとなる。具体的な行動様式が職員に理解され、共有されることにより、どこの園ではなく、法人としての子どもへの保育理解が大きく進み、自分の考え方に縛られない、子どもにとっての考え方にまずは方向転換することができた。

この内容を各園で伝え合うことにより、保育への関心興味は一段と増していった。来年度へつなげていくとても大事な原石を得た気分である。

特に、小形を筆頭に各園の副主任以上が協力して仕事を進めていったことは特筆する内容である。今回の試みを大きく花開かせていけるよう次年度には園全体を対象を広げ邁進していく所存である。

1 施設運営

(1) 児童の処遇 2025年3月現在

ア クラス編成

①【こばと第一保育園】

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備 考
ポピー組	0歳	3名	10名	
つくし・れんげ組	1歳	4名	18名	
チューリップ マーガレット組	2歳	4名	20名	
ばら組	3.4歳	2名	25名	
もも組	3.4歳	2名	26名	
カンナ・コスモス組	5歳	2名	33名	

②【あおぞら保育園】

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備 考
ひよこ組	0歳	3名	10名	
りす組	1歳	3名	16名	
うさぎ組	2歳	3名	20名	
ぞう組	3歳	2名	24名	
きりん組	4歳	2名	27名	
らいおん組	5歳	2名	22名	
ばんだ組	一時・定期	2名	10名定員	
誰でも通園	0歳	1名	3名定員	
	1歳	2名	6名定員	

③【あおらぱれっと保育園】

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備 考
もみじ組	0歳	2名	6名	
あんず組	1歳	3名	15名	
たんぽぽ組	2歳	3名	19名	
もり組	3歳	2名	22名	
うみ組	4歳	2名	22名	
にじ組	5歳	2名	22名	

④【あおぞらルーム】

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備 考
	1歳	4名	6名	
	2歳		6名	

イ 健康管理

健康診断

0 歳児 毎月

1 歳児～ 年 2 回（ 4 月、10 月）

歯科検診 年 1 回（ 6 月）

他、別紙記入

ウ 保 育

あおぞら保育園

2 年前、保育の意識を変え、0 歳児クラスから、丁寧な育児、一人一人を大切にする保育とは何かを考え、「目と目を合わせる」「子どもの気持ちや大人の行動を言語化し伝える」を補助職員とともにクラスメンバー全員で意識して保育を始めた。今までの経験則からなかなか受け入れられなかった保育者も、実際の子どもの姿の変化を体現し、1 年間をかけて保育の成果を作り上げた。

昨年度は、その成果をもとに乳児クラス全体へと発展し、職員一人一人が、やっているつもりにならず、経験に頼らないことを意識し、逆にそこが難しいのだが、皆で声を出しあい、常にクラスコーディネーターたちが情報を共有しみんなで新しい形をつかんでいった一年となった。

今年度は意識を変えてきた 3 年目。乳児クラスだけではなく、園全体で考えられるように園目標をクラスコーディネーター会議で決めた。「愛」がテーマとなり、「愛を広げよう！つなげよう！支えよう!!」をキャッチフレーズとした。

0 歳からの健全な意思決定、と理念の振り返りの継続をしていくことを今年度も意識し、朝礼で、理念の行動指針を定期的に決めて復唱し、毎週金曜日にクラスでの振り返りを発表した。毎週振り返りの時間をクラスで設けるようになり、クラスではパートさんも交えて振り返りを行い、事務所チームも事務、看護師、用務が一つになり振り返りをする姿が見られ、園全体で理念について考え始め感動的であった。

意識を変えて保育した子どもたちの 3 年たった姿は、圧巻である。うれしい、悲しいだけの感情だけではなく、くやしいなどたくさんの感情の言語化を大人が行ってきたので、言葉の獲得数は驚くほどである。相手に伝えることの楽しさや大切さをしっかりと身につけている。

「愛」とは何かを言語化するため、コーディネーター会議で話し合うがなかなか答えが見つからなかったのが正直なところであった。来年度は言語化してより丁寧に考えていきたい。

✿ 乳児クラス

一昨年度より積み重ねてきた保育の継続性がより深まった1年となった。今まで各年齢で「0歳は0歳」「1歳は1歳」…といったようにクラスでの1年間がその年限りで切れがちな部分が少なからず見られていたが、その点に関して大切にしていることがクラスごとに切れずに0、1、2歳と成長を見据えた繋がりが出てきている。この点は職員間の共通理解が深まったことも大きく関係しており、「クラス」という枠を越えた広い視点で子どもの成長を捉える事ができ始めている。

子どもの姿を見ても、「自己決定」を始め、「話を聞く」「待つ」といった部分や「自分の気持ちを言葉にして伝えようとする」姿に大きな成長が各年齢で見られている。

✿ 幼児クラス

昨年は、異年齢の交流を意識し、今年度は職員間が交代してクラスに入る機会が多かった。他クラスの職員がクラスに入ることで、新たな視点で子ども達の姿や発達をみることができ、職員間の情報共有や意見を言い合える関係となった。また問題が起きた時に、現状を知っていることで自然と助け合える関係性を作ることができ、幼児クラスの子ども達も担任ではない保育士でも、安定して過ごし、「保育園の中にいる大人は安心」となっていたと感じた。またマネジメント研修を通し、職員の成長を指標を持って一緒に考えることで、自信が持てない職員がステップアップしていく姿があり、若手の職員に対しての支援や計画の大切さを感じるがあった。

こばと第一保育園

- ・4月中旬から6月中旬までの期間、外壁修繕工事を行った。
- ・1歳児クラス、2歳児クラスを2クラスから1クラスにして部屋の中に扉をつける工事を行い、2部屋を使用しての保育環境になった。
- ・3、4歳児クラスも3クラスから2クラスになり、空いた部屋を共有スペースとした。
- ・保護者の会(なのはな会)について、保護者役員の選出が難しくなり、アンケートの集計結果をふまえて廃止とした。
- ・子どもたちが自己肯定感をもち、主体的に活動できるように理念をもとに、職員と補助職員が共通理解を深ながら、連携して保育を行った。
- ・『遊び』をテーマに4園合同の研修のなかで、連携を深めるための意見交換の場がもてたことは、1歳児クラスが一つのチームとなってクラス運営をしていけるように成長できる機会になった。
- ・環境評価スケールを行うなかで、保育内容や環境についての目線合わせや職員間での共通理解につながるように今後も定期的に取り組んでいきたい。
- ・人事考課については、評価があることで、一人ひとりの職員と向き合う中でお互いの成長に

つながる基準になっている。

あおぞらぱれっと保育園

職員間の情報共有やコミュニケーションの在り方、理念の共通理解など課題が多く、その課題を評価する一年でもあった。人員の確保にも努め、保育時間の捻出を図り、安全安心な運営を心掛けた。

課題の多くがコミュニケーション不足、連携不足、からくるものと考え、対話の時間を今まで以上に多くもつように心がけるが、時間の捻出がうまくできなかったことは否めず、改善すべき点として挙げられる。

コミュニケーション不足や連携不足からくる心理的安全性も低く、派生する保育の適正化にも努めなければならない。

年度途中で、法人内1歳児研修をきっかけに、保育の向上とともに、保育を通じて自ずとコミュニケーションを図る契機となった事は、当園にとってはいいことであったと考える。

ただし、単クラス内で留まってしまう傾向は見受けられたため、今後は園全体に浸透できるよう努める。

人員配置も大幅に変わった次年度は、評価された課題に向き合い、更なる楽しい職場・更なる働きやすい職場環境を目指し、リスタートの年と位置付け運営していく。

あおぞらルーム

少人数制を生かした丁寧な育児行為を徹底してした。

特に、あおぞらやパレットとの連携が重要なことから、日頃より両園との情報交換や人材交流を積極的に行い、子ども、保護者たちが安心して移動できるようサポートすることで、新たな生活の異動もスムーズにできてきた。保護者を巻き込んだ交流の進展が次年度以降の課題となる。担当者も変わることから、地道に内容を精査し、レベルアップを図っていきたい。

また、理念についても実践を通してながらパート職員とも理解を深め、子どもへのアプローチの意味を考えながら進めることができた。

新規事業 4園合同による 1歳児クラス研修

職員の意欲が高まることを目的に、4施設で合同で研修を行う。初めての研修のため、クラスを1歳児クラスに限定し、内容も「遊び」をテーマに行った。

第1回目は、合同研修の意図の説明と1歳児が人格の発達の上で重要であることを根拠を基に説明し、再確認をした。

第2回目は、①子どもの変化 ②自分の中での意識の変化 ③互いの変化 ④大切にしたい事の共有 ⑤MORE あと2か月で何ができるか

第3回目は、グループでの達成度合いについて発表し、「振り返り、次につなげよう！」というテーマでFBを行ない、まとめた。

【スケジュール】

- 2024年10月22日(火)102号室 内容の打ち合わせ(副主任以上)
- 11月20日(水) あおぞらぱれっと保育園 ホール 4園合同研修 1回目
- 2025年1月17日(金) こばと第一保育園 1歳児クラス 2回目
- 2月18日(火) あおぞら保育園 1歳児クラス 3回目

4施設合同で研修をすることで、自分達と同じ課題を共有したり、他施設の意見を取り入れ、改め保育の意味や内容を考えたりと、相乗効果が感じられ、職員の意識と意欲が向上しているのが感じられた。最後は、ワールドカフェで他クラスとも意見を言い合うセッションを行ったが、どのグループも安心して話すことができていた。

保育の内容も自分たちで見守りカメラを活用して見返し、自分の姿や日課を見直し改善することで、クラスの子が落ち着き、子どもの反応や関わる時間が増えるなど、明らかに保育の「質」がよくなったと言える。

地域事業

・あおぞら保育園 一時保育事業実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4時間	36	9	9	4	11	9	8	7	2	0	8	23	126
8時間	92	88	51	48	58	41	50	42	36	22	33	65	626

・あおぞら保育園 定期利用保育

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
週3半日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週3一日	1	1	1	1	2	1	0	1	1	2	2	2	15
週4半日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週4一日	0	0	0	0	0	1	2	1	1	1	1	1	8
週5半日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週5一日	2	2	2	2	2	2	3	4	4	4	4	5	36

・あおぞら保育園 誰でも通園事業 5/13より始まる

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳		30	45	56	35	47	64	54	50	58	64	54	557
1歳		25	85	112	82	107	130	120	122	103	92	106	1,084

・たまっ子との連携事業

『ママと一緒にベビーマッサージ』 8月・3月 あおぞら保育園職員2名

『新年会 獅子舞い』 1月 あおぞら保育園職員2名

・地域社会との連携

各地域の子育て拠点会議に参加し、関係機関、施設との情報共有を図る。

また、理事長は消防署の防災予防活動の副会長として活動

消防署から避難訓練時に消防士による見本訓練を体験する。

主な行事

- 4月 入園式、保護者懇談会
- 5月 遠足
- 6月 お泊まり保育(各園によって時期は違う)
- 7月 プール開き、あおぞらフェス(地域のお祭りに参加)
- 9月 保護者懇談会
- 10月 運動会、ハロウィン行事
- 11月 遠足
- 12月 年長バイキング、子ども会
- 2月 保護者懇談会、新入園説明会、年長お別れ遠足
- 3月 卒園式
- 月例行事 誕生会、

エ 栄養管理

別紙記入

オ 安全管理

- 交通安全教室 (各園により実施)
- 非常災害時の避難訓練 毎月
- 不審者訓練 年1回
- 引き渡し訓練の実施 (9月 1日)

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

	園長	主任	副主任	保育士	看護師	栄養士	調理員	事務
こばと第一保育園	1名	1名	1名	16名	1名	1名	3名	1名
あおぞら保育園	1名		2名	20名	1名	1名	3名	1名
あおぞらパレット保育園	1名		2名	14名	1名	1名	3名	1名
あおぞらルーム	1名		1名	3名				

イ 健康管理

- 健康診断 年 1回 (4～5月)
- 細菌検査 年 2回
- 給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回
- 詳細は別紙記入

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回（研修会議とセット）

行事前打合せ会（随時）

副主任会 （随時）

クラスコーディネーター会 （随時）

エ 研修報告

○毎月コンサルティング研修会議を行う

人事考課の定着をベースに評価軸の共通認識をもとに進めてきた。

それぞれの対応ではなく法人基準の浸透が進んできた。

○法人研修会議（可能性コンサルティング主催：法人研修）

○感覚統合研修（講師：島田療育センターより作業療法士高橋先生）

オ 退職・福利厚生

○福祉医療機構退職共済制度加入

○東京都社会福祉協議会従事者共済会加入

○健康検診受診

○インフルエンザ予防接種

2 施設管理

（1）事務関係

ア 会計事務、管理事務

会計管理は、社会福祉サービスセンターと業務提携を結び、毎月の事務管理を協力して行った。労務管理は、多摩労務事務所と業務提携を行い、適宜対応する。

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

保育システムの見直しを行いながら作業してきている途中である。（リアクセス）。

（2）設備関係

ア こばと第一保育園での経年劣化による外壁工事

イ こばと第一保育園での1歳児クラス、2歳児クラスに引戸取付工事

ウ こばと第一保育園での職員出入口門扉交換

(3) 備品関係

- ア 備品購入に関しては法人としてのマニュアルを作成し、各施設での流れを統一した

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回。必ず消火訓練(実地)を行う。

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回) 富士消防設備に委託

ウ 非常食糧の備蓄

○ (全児童数+全職員数) × 3食 × (3日) 分